

はじめに

校長 南 道子

学芸大学附属小金井中学は国立大学の附属学校として教育、研究、大学生の教育実習の3つの責務を有している。研究の内容としては、それぞれの教科が検討した教育実践が主に行なわれているが、その成果の発表場所として年1度の校内研究授業を行い、多くの教育関係者が来校している。現在の研究主題は以下の通りである。

平成27年度～平成29年度

学ぶ意欲を持ち、追求していく生徒の育成（第二年次）

～「深い学び」の創造をめざして～

本年は特に、「深い学び」を副題としてとりあげ、それについてどのような事をすればそれが生徒に獲得できるか、数回の会議を経て全体の意見を集約した。

本年度、文部科学省では国立教員育成大学・学部・大学院・附属学校の改革に関する有識者会議がもたれている。附属学校の課題として、地域の教育に貢献しているかがおおきく取り上げられていた。本校では、いままでの週末開催していた校内研究会では、部活動などの関係から出席できない教員がいるのではないかという事から、今年度は金曜日に開催を試みたところ、昨年度と比較して70名の増加で、約280名が参加した。地域や公立の教育に貢献するのは、まず校内研究授業に教育関係者が多数参加してもらうことが大事であるが、今回の試みはその意味では有効であったと考えられる。

本年度の講師として、京都大学大学院教育学研究科教育方法学の石井英真先生に文部科学省が押し進める教育について講演をしていただいた。午前中石井先生には、本校の研究授業をみていただいた。小金井中には大変素晴らしい授業展開をしている先生がいるが、最近はそのようなベテランの授業が伝承されないのが、教育界の大きな問題点であるという話を伺った。附属の使命とは、これらの研究授業を、多くの教育関係者方にみていただき、教育の質向上をはかる事である再認識した。

2019年3月